

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第7回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和4年3月7日（月）午後6時40分から午後8時20分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：浦壁澄子、小川善司、高野恒男（副会長）、富田晃、松倉康雄、
村田秀夫（欠席：小嶋清介、宮崎陽、本城文夫（会長））
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、五十嵐主任

8 発言の内容

—次第3 協議 高田区の活性化について—

【富田座長】

第7回第1分科会を開会する。

皆さんには、私が作成した資料を1週間前に配布している。その資料は、読まれてきたと思うので、まず、それについて報告する。

前回の全体会議では、西山委員から意見が出されたので、それに対する回答を小川副座長と話し合っ資料にまとめている。この件について、何か意見、質問があれば伺いたい。

【高野副会長】

最終的には、最低5人ぐらいの若者から話を聞いて、その結果、どんな問題があるか、審議できるようなものがあるかどうか、探っていくことでどうかと思う。

今やっていることは、1人の若者から話を聞いて、その問題点がどうのこうの、PRとか、資金とか、いきなりそんなところまで行っている。その前にもっと数人から話を聞くべきだと思う。今やっていることは後の問題ではないか。

【富田座長】

それについては、前から話をしている。

今まで過去10何年間、高田区地域協議会で行った意見交換会を調べてみると、余りにもたくさんの意見等が出ているが、ほとんどまとめていない。

4月に町家見学を実施する予定である。その時に若者が出てくるので、それは、これから意見を聞くことにしたい。

【高野副会長】

当初の会議では、いろいろな若者と話をすることに決まったと思う。

そういうことをしないで、町家のリノベーションのことを進めている。だから西山委員から意見が出たのではないか。いつからそうなったのか、はっきりしないといけない。その点はきちんと押さえてほしい。

【富田座長】

西山委員からは、「課題が若者の地域参画から、町家のリノベーションによる活性化に変わったような印象を持った。いかがと思う。」という意見であった。

もう一つは、「若者の地域参画を協議した結果、自主的審議にした方がいいと思うことがあればわかるが、自主的審議ありきで協議するのではない。」ということであった。

これについては、小川副座長と話し合って「あくまでも若者の地域参画に対して協議してきており、いろいろな業種の若者に当たってみたいと考えている」としたい。

まだ接触していないが、スポーツについてはAさん、介護関係はBさんたちが候補に挙がっている。

【高野副会長】

まず、それをやってからであればわかるが、一気に町家のリノベーションの話に進

んでいる。

【富田座長】

今回のやり方は今までの手法と違う。7月に終わらせることにしたい。

浦壁委員から何回も言われているように、あまり広げてしまうとまとまらない。そのとおりだと思っている。

高野副会長の言うとおりに、たくさん話を聞いた場合、いろいろな意見が出る。介護の関係であれば、人材不足とか、若者がいないとか、給料が安いとか。そのような意見や問題が出て、それをどのようにまとめるのか。それでは、收拾がつかなくなるのではないかと小川副座長と話し合っている。

【高野副会長】

多くの若者から話を聞くことから始めて、その中から問題点があれば、それについてやっていこうということになっていた。だから、スポーツの団体とか、ある程度その話を聞く必要があると思う。

【富田座長】

それを聞いたら、問題点を解決しないといけない。高野副会長の言うとおりにすると多分7月までには終わらない。

【高野副会長】

期限があってどうのこうのではない。その問題が何かということを探すのが我々ではないか。期限があるからそちらに進むというのは間違っているやり方ではないか。

【富田座長】

そこは座長と副座長に任せてほしい。7月にまとめられなかったら責任を取って座長を辞める。

そのために私は、いろいろ小川副座長と議論している。NPO・ボランティアセンターにも足を運んで探している。その中で、AさんやBさんなど、いろいろな人に聞いてみたらどうかということで、アドバイスももらっている。でも、いろいろな人の話を聞くと、どんな問題が出てくるか、大体、想像ができる。

まず、この地域協議会のようにボランティアでやっている場合、「時間は関係ない」という感覚を打破したいと思っている。打田さんの話を聞いて出てきた3つの問題

をクリアしたら、8月からは介護とかに進んだらいいのではないかと。いろいろな人の意見を聞きたいとわれるが、7月という期限があって、それがまとまったら次に進むことを考えている。

まず、打田さんの話を聞いての問題点や若者の参入についても、市としていろいろやっていることが調べてわかった。それで町家のリノベーションとか、市街地の活性化とか、若者をいろいろ引き込むことについては、市も民間も団体もよくやっているのだから、それをもってこの問題はクリアしたことにしてもよいと思う。

4月には、町家見学会を実施したい。それ以降は介護とか、スポーツ、そちらの方に入る。そういう手順を踏まないといけない。余りにもたくさん話を聞くと7月にはまとめられない。そうでないとその3つの問題をまとめる自信がない。私はこれでまとめたい。「有言実行」でやるのが私の主義である。

【高野副会長】

私は、これを立ち上げたところからちょっとずれていると感じていた。私の意見だけではなく、他の方の意見も聞いてもらいたい。

【村田委員】

基本的には、高野委員と同じ意見、感想、印象を持っている。

高田区地域協議会の分科会としては、高田区全体に共通する活性化に関する問題点を見つけ出すプロセスは簡単なことではないと思うが、一つの具体的な取り組みをリアルに見ながら把握していくことが必要だと思う。

町家についての取組は、これまで勉強させてもらって、今まで以上にクリアに見えてきた。やはり他の分野のところも見て、今まで行政が、地域の活性化に向けてどんな施策を行ってきた、現状をどうとらえて、どのような今後の方針を持っているのかを把握してもいいと思う。

それが、私たちが果たす役目であり、明確にしていくのが私たちのプロセスだと思う。

【松倉委員】

高野副会長と同じような考えである。

若い他のグループの方から話を聞いてから、次のステップに進めば良かったかもしれない。打田さんの話だけでどんどん進んでいるので、西山委員から意見をもらっ

たのではないか。ちょっと最初の話とは違うというイメージがある。

【浦壁委員】

皆さんが言うとおりに、焦点がどんどん違った方向に行っている気がする。

西山委員から言われたとおり、私たちは地域の活性化をどうすればいいかというところを出発点にして、若い人たちの意見を聞いて、若い人達から参加していただくことが前提にあった。

この町家の件はこれでいいが、それをどう地域の活性化に結びつけていくか、一番大事な基本になるところが欠けている。何かどんどん論点がかけ離れているような気がする。

だから、地域の活性化に若い人たちがどうすれば参加してもらえるか、それを私たちが具体的に詰めていく必要がある。そのために若者を対象にヒアリングして、どうすればたくさんの若者が参画できるか、確認するようにしなければならない。

その確認する具体的な手法については、皆さんの意見を聞いてどうするか、それを決めるのがこの分科会だと思う。

【村田委員】

もう少し付け加えて言いたいことがある。

今までの分科会での論議、それから打田さんの話を聞いたりする中で、思った以上に上越市では活性化の取組が行われていることを実感した。最初の段階では、こんなに活性化していると思わなかったもので、私は非常に喜んでいる。

ただ、コロナとか新しい時代、人口減少がさらに進むという現象の中で、その先を見通した動きというか、どんな提言をするか。それは、私らが行政からも学びつつ、地域の声、若者の声を聞きながら、新たな方向を一緒に探り出すというプロセスになると思う。

そうした場合、7月とか1年とか、期限を区切らない私らの探求になるという印象を持っている。

【富田座長】

まさに今、村田委員の発言のとおりである。

私たちは全体をみて考えないといけない。私もいろいろな団体と話をさせてもらった。市の方も地元の方もいろいろなことをやっている。

それで、私の今日の一つの結論として、4月に町家見学会を行って、そこで若者から話を聞くことにしたい。それを聞いた後、これはこれで終わって、4月、5月以降は、介護とかスポーツに進むことでどうか。

自分の考えはその分野しかない。他に何かあれば皆さんから意見を出してもらいたい。高野副会長、村田委員からもどんな若者がいるか、意見を出してもらいたい。簡単に皆さんは言われるが、どういう若者と意見交換をしたいか考えを出してほしい。私は、NPO・ボランティアセンターに行き、どんな人がいいか推薦もらって、介護やスポーツということを考えている。それは5月以降でいいと思う。

ただ、この件をこれまでやってきたという事実があるので、まとめないといけない。私もこの2、3か月、徹底的にやってきた。その中で、若者が町家で活動していることが見えてきた。打田さんと全く違った事業に取り組んでいる若者もいる。例えば、生まれ故郷に帰って事業をやりたいという若者がいれば、その話もきいてみるとか、今後、そんな考えも持っている。

だから、4月に町家でその人から話を聞いて、町家の件はこれでよしとする。その後は介護とか、スポーツ関係に入っていきたい。それは5月、6月、7月の3か月で意見を聞いて、行政もこれだけ協力してやっている。団体もこのように活動している。だから問題ないと感じられればいいと思う。そのように進めて行きたい。一つ一つ解決していききたい。そのように一つずつ片付けていくというのが、私と小川副座長の今回のやり方である。皆さんからはご理解いただきたい。

そういう若者も行政もきっちりやっていることを確認したらレポートが書ける。それは、第4期の高田区地域協議会が調べた結果、町家に関しては、「行政もこういうことやっている、活動団体も、民間団体もこういうことやっている。それを継続してやっていけば、高田はすたれることはない。」と言える。そして介護とかスポーツはどうなのかということも、そこまで調べなくては駄目である。

次に、西山委員の自主的審議に関する意見はその通りである。皆さんといろいろ議論して、これを自主的審議としてやろうということになったらでいいと思う。

・資料「町家をリノベートして、事業化したお店」（一覧表）について説明。

— 資料（一覧表）を基に、各委員によるフリートーク —

【富田座長】

問題があれば自主的審議事項に取り上げてよいと思っていた3点について整理すると、PR方法については、打田さんたちは既にSNSを活用して、いろいろな方向で行っている。資金については、これも彼らはクラウドファンディングを使って実施している。町家の譲り受けについては、松倉委員の町内でもいろいろとやられているが、行政とその町内会の皆さんとで一生懸命に取り組まれていることがわかった。

以上のことから、打田さんの話を聞いて見えてきた3点についてまとめると、私は十分やられていると理解している。例えば、問題点を行政に提言するならば、町家の改修費が高くて若者が入って来れないということが考えられたが、結構、彼らは彼らなりに安く済む方法など、いろいろ考えていることも分かった。

【浦壁委員】

若者の事業化について議論するのではなく、自発的なボランティア活動を通じて、社会全体を活性化する方法を考えてはどうか。地域協議会が求めていくのは、地域全体の活性化、社会全体の活性化に向けての話し合いではないか。

この次に予定されている町家見学会開催の意図もはっきりしてもらいたい。町家をリノベーションすることは、地域協議会が関わることではないと思われる。見学会をすることについて、どんな視点でこれを計画されたのか。

【富田座長】

これからはITとか、いろいろな新しい事業が起こされると思う。今回は、若者が集まっているところをみて実感してほしい。その若者の新しい考えを聞いたらいいと思う。若者のそういうところを実際に見れば、「これは一つ任せられる」というように、皆さんも安心できると思う。それは研修という形で見てもらって、その時、皆さんがいろいろな質問をしたらいいと思う。

若者が今、どんなことを考えて、どういう事業展開をしようとしているのか。行政がどこまで支援してくれているか、行政がどこまで介在しているかということも聞いてはどうか。

次に改善案の協議については、これからさらに調査するかどうか、行政がどこまでやっているか、それらをまとめることが必要ではないか。でも私としては、もうやる

ことはないと思うが、皆さんの方で何かあればそれをすすめればよい。

この3つの問題点については、町家の見学会の時に直接、若者から話しを聞いて、問題があるかどうか確認してもいいのではないかと考えている。

【高野副会長】

町家の譲り受けなどについては、市の方で、来年度の事業として考えられているときいた。その情報について堀川センター長から、何か情報があったら伝えてほしい。

【堀川センター長】

以下の資料を配布し情報提供を行うとともに、第1分科会で話し合ってきた経過を整理。

- ・令和4年度当初予算案の概要の「まちなか居住の推進に向けた取組支援」
- ・令和4年度一般会計予算案（委員会資料）の「市街地整備事業」の高田地区における「まちなか居住推進事業補助金」

【富田座長】

今の整理されたとおりだと思っている。

これからは、スポーツ、介護の話題に入ったらどうかと思う。

【浦壁委員】

以前、私は意見交換先の案として、PTAの団体とか、近隣の子供会とか、町内会などを巻き込んでどうかという提案をした。そのことに関する記述は、先ほどのセンター長の説明には入っていなかった。

でも、一度このような話で進めてきているので、これはこれできちんと終わらせてから次に進むことでいいと思う。

【村田委員】

今の話のように、体系的にまとめてもらうことは有効であり、すっきりする。この体系の中の別の視点として、ボランティアの取り組み、例えば、地域の人との繋がりを強める文化・スポーツ・芸術・まつりなど、様々な分野で、お金やお店の取り組みではなく、何かボランティア的な取り組み、或いは若者たちが人と人が繋がるようなことを加えてはどうか。

町家で実際に商店を運営しながら、人と人とが繋がる、時間を過ごせるような活性化の取り組みという2つの視点を体系図のどこか位置付けて、この視点も忘れずに

確認することにしてはどうか。

【小川副座長】

そのボランティア活動で、何か具体的な事例があれば教えてほしい。

【村田委員】

子ども祭りやイベントなど、自主的に人が集まっているいろいろなところで実施されている。そのような自主的な事業、多少補助の対象になっている取組も多いが、そういうのも素晴らしいと思う。

【小川副座長】

村田委員が実際に動かれて、どういう方を存じているか。

【村田委員】

具体的には知らない。

雰囲気として、手弁当で集まって、何かのイベントや祭りを成功させたりしている取り組みがあったような気がしたので発言した。

【小川副座長】

そのボランティア活動は、分科会での話し合いのネタになるかどうか。具体的に提案してもらいたい。

【村田委員】

まちかど交流館でいろいろなイベントが行われて、人がとてもいい感じで集まっている。どういう類のイベントなのか、どういった人たちが取り組んでいるのかよく把握してないが、そのように人が集うことは素晴らしいことだと思っている。

【小川副座長】

今まで、富田座長の動きを見ていると、富田座長は、リノベーションされた全部のお店を訪問して話を聞いたり、市役所まで行って全部裏付けをとったりして、このようにまとめてきている。

だから、村田委員もぜひ、自分から動いて、そういうボランティアのところに行って話をして、その人を一つ紹介してもらいたい。

【村田委員】

今のは視点として発言した。

【浦壁委員】

富田座長は、ここまで裏付けをとってきたことを今、聞いた。そのご苦労によりここまで進んできた。感謝したい。

私達も相当な時間を使ってきた。だから今後の進め方にも記載されているとおり、地域協議会としては、空き家に関する問題はもう難しいと思う。

この件は、現状把握したというだけで、私たちの成果になる。これはこれで一旦打ち切りにして、次の介護とか何かにはどうか。皆さんに伺ってそっちに絞って、意見を集約した方がいいと思う。

町家のリノベーションの方は、無駄ではなく、このようにまとめてもらったことは大きな成果だと思うので、これ以上、この分科会で話し合うのは難しいと思う。

【富田座長】

では、最後に4月2日、9日に若者の意見を聞いて、まとめることでよいか。

そして次のテーマに進むことにして、スポーツ、介護など、そちらの方を調べてみたい。

- ・4月2日と9日に、町家を利用する若者たちのところに行ってヒアリングをすることを諮り、了承を得る。

【村田委員】

まず町家に焦点が当たったのは、きっかけが空き家対策であった。

空き家がいっぱいあり、雁木通りも空いている家があったりして、それを何とかしなければいけないという問題意識や課題意識が皆さんの共通認識であり、その取り組みにスポットライトを当てて、調べて学ぶことができた。

課題へのアプローチ、団体や若者に焦点を当てていくという、テーマの持っていく方、焦点の当て方のプロセスがよかったと思う。

【小川副座長】

私もそう思う。

やはり高田区の中心は、雁木・町家が中心。そこに焦点を当てられたのは正解だと思う。それから、ぜひ、市のホームページを見てほしい。ホームページには、移住とか空き家とか、そこに実際に移住されてこられた女性2人の動画が出ている。

そういうことを頭に置いて、町家見学会に行ってもらいたい。そうすると全体像が把握できる。自分の肌で実感してもらうことが1つの目的になると思う。

【松倉委員】

浦壁委員が言われたような形でよいと思う。そしてまた、新しく何かを探してみる。もうここまでやってきたのだから、何か結論みたいなものをつけないと、また同じ形になってしまう。

【富田座長】

行政も民間団体もよくやっている。その証拠に、ここ4、5年でずいぶん町家を活用したところが増えてきている。そういうことを評価して、来月で町家の方は終了する。

- ・町家見学会は、4月2日、9日の午後2時から4時（内容は同じ、2回に分けて実施）
- ・見学場所は、兎に角（仲町4）、珈琲焙煎所まめつぶ（本町2）、Bibit（本町4）
- ・移動時間を含め、1か所30分程度とする。
- ・委員への案内、出欠確認票を3月22日（火）第12回高田区地域協議会で配布する。
- ・次のテーマは、スポーツのAさん、介護のBさんに当たってみて調整する。

【浦壁委員】

PTAとか、子供会とか、やっぱり子どもを巻き込んだ方がよい。そうすると高齢者から家族までということになって、その方が集まりがいい。

その地域、その町内ごとにする。あまり広く、高田区全体を掌握するようなイベントを計画するのは難しいと思う。それよりも地域ごと、町内ごと、その単位で活性化の具体的な方向性を示めさなければ難しいと思う。それについても皆さんで協議した方がいい。

【富田座長】

先程の件は、私の方で情報収集を行いたい。

改めて、4月2日、9日に町家見学会を実施することを確認

- ・閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 0 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。